

市立伊丹病院のあり方に関する 市民アンケート調査報告書(案) 資料編

平成30年 10月 30日 伊丹市

目次

■ アンケート結果サマリ P. 3

■ アンケート結果 クロス集計 P. 4

アンケート結果サマリ

質問項目		サマリ
Q5～7; 患者受療	入院経験のある 医療機関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「市立伊丹病院」が42.1%、「近畿中央病院」が21.2%、「市外の病院」が29.0%となっている。病院を選んだ理由は、医師による紹介との回答割合が高いが、伊丹市外の受療では救急搬送の割合も高く、重症で流出した患者が含まれていると考えられる ■ 伊丹市全域において市立伊丹病院への受療割合が高いが、市内南部、市境近辺などは、近畿中央病院、あるいは他市へ受療する傾向も見られる
Q8; 高度急性期病院の必要性		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「他の病院(公立病院を含む)と市内外を問わず広域的な連携により、高度な医療を提供できる病院の設置を検討すべき」が65.1%と圧倒的に多く、回答者の内訳では、市外での入院経験者で割合が高く、市内で治療を受けることができなかった患者の意見が反映されたのではないかと推測される
Q9～11; 市立伊丹病院 への期待	市立伊丹病院の 医療提供機能	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「救命救急センターの設置など救急医療体制の充実」が最も多く、31.7%であった。次いで「がんなどに対する最新治療等の高度な医療」が20.5%、「健康診断・がん検診等による病気の予防や早期発見に対する取り組み」が17.0%であった ■ 「健康診断・がん検診等」の予防医療は回答順では1番目の選択では少ないものの、2番目の回答では、回答が高くなっており、健診等の予防医療に対する意識は高いと考えられる
	近畿中央病院との 連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「2病院が有する医療資源の効果的な活用による、より高度な医療の提供」が最も多く、37.3%であった。次いで「2病院の医療従事者の交流や人材育成などによる、利用者の満足度の向上」が24.6%、「診療所や他の病院との連携において、2病院が中心的な役割を担う」が24.0%であった。 ■ 1番目の選択で診療所との連携への回答者は94人と少ないものの、2番目の選択では多くなっており、市民の地域連携に対する関心は高いと考えられる
	新病院への アクセス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「バスなどの公共交通機関を利用する場合での利便性」が最も多く、42.3%であった。次いで「自動車を利用する場合での利便性」が29.3%となっている ■ 公共交通機関は2番目の選択においても高く、また高齢になるにつれ割合は高くなっており、今後の高齢化に伴い、公共交通機関に対するニーズは高くなると考えられる
Q13; 市立伊丹病院の経営形態		<ul style="list-style-type: none"> ■ 「適切な医療水準を維持するために必要なのであれば、近隣の病院(公立病院を含む)との統合も視野に入れるべき」が最も多く、41.0%であった。次いで「適切な医療水準が維持されるのであれば、経営形態にはこだわらない」が27.9%、「経営赤字が続くのであれば、適切な医療水準を維持するために、民間に運営を委ねることも視野に入れるべき」が21.5%であった。

Q3;居住地 × Q6;過去の入院先

Q3; あなたがお住まいの小学校区を選び、記入してください。

Q6; 入院された病院名を教えてください。

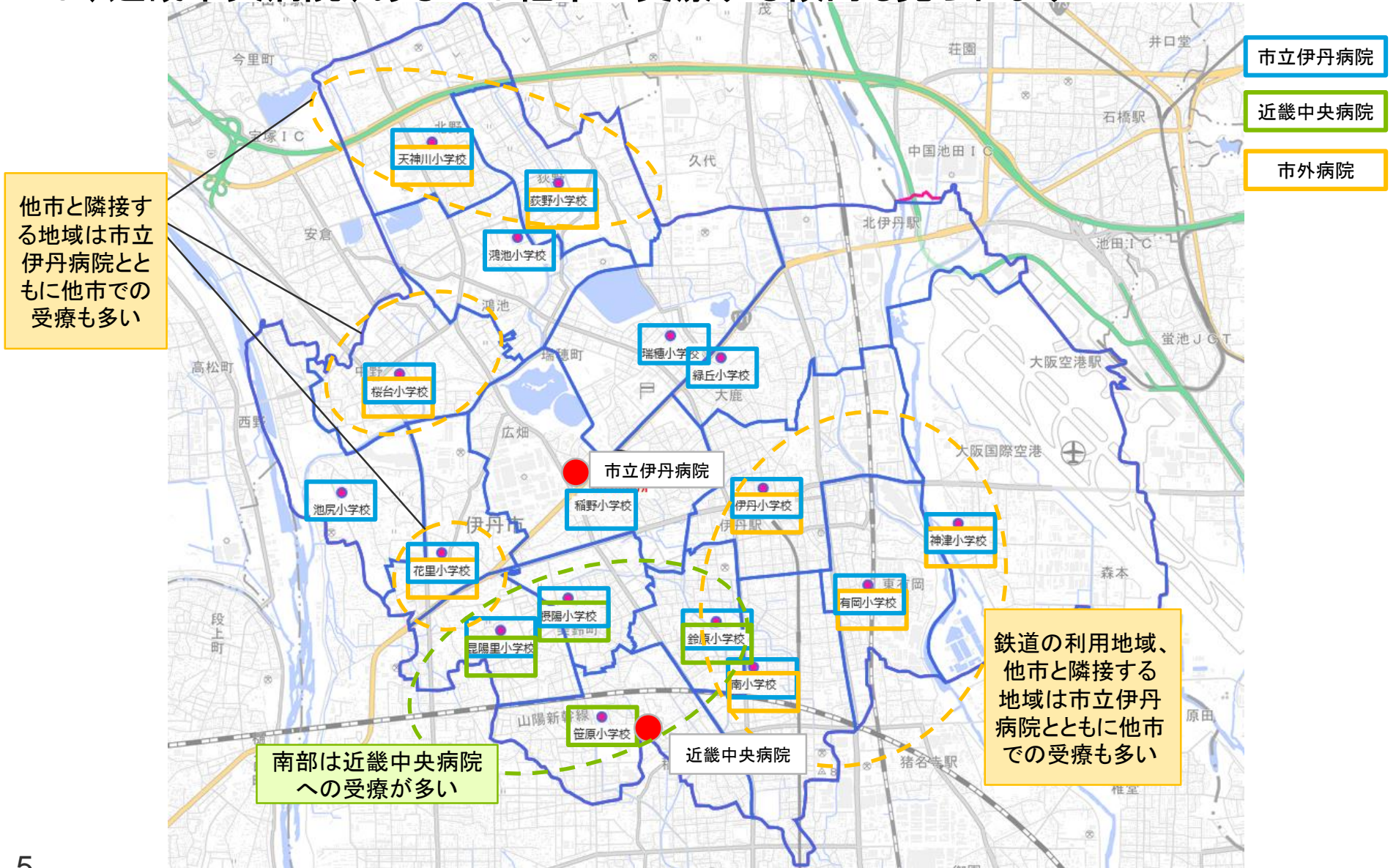
色付セル

入院割合30%以上の小学校区

小学校区	回答数	割合	伊丹市人口	割合	Q6 入院先 件数					Q6 入院先 割合				
					市立伊丹病院	近畿中央病院	伊丹市内	伊丹市外	合計	市立伊丹病院	近畿中央病院	伊丹市内	伊丹市外	合計
伊丹	193	12.8%	19,967	10.1%	66	21	17	52	156	42.3%	13.5%	10.9%	33.3%	100.0%
稲野	117	7.8%	12,900	6.5%	52	14	8	24	98	53.0%	14.3%	8.2%	24.5%	100.0%
南	134	8.9%	17,574	8.9%	35	28	8	36	107	32.7%	26.2%	7.5%	33.6%	100.0%
神津	32	2.1%	5,911	3.0%	16	2	2	9	29	55.2%	6.9%	6.9%	31.0%	100.0%
緑丘	94	6.2%	11,072	5.6%	42	9	5	20	76	55.3%	11.8%	6.6%	26.3%	100.0%
桜台	91	6.0%	11,868	6.0%	37	6	7	24	74	50.0%	8.1%	9.5%	32.4%	100.0%
天神川	101	6.7%	13,639	6.9%	38	6	9	28	81	46.9%	7.4%	11.1%	34.6%	100.0%
笹原	125	8.3%	16,867	8.5%	25	54	7	31	117	21.4%	46.1%	6.0%	26.5%	100.0%
瑞穂	65	4.3%	11,252	5.7%	36	4	4	13	57	63.2%	7.0%	7.0%	22.8%	100.0%
有岡	84	5.6%	12,341	6.2%	24	16	4	20	64	37.5%	25.0%	6.3%	31.2%	100.0%
花里	66	4.4%	8,045	4.1%	30	7	3	17	57	52.6%	12.3%	5.3%	29.8%	100.0%
昆陽里	56	3.7%	9,213	4.7%	16	19	1	13	49	32.7%	38.8%	2.0%	26.5%	100.0%
摂陽	69	4.6%	8,645	4.4%	29	22	3	7	61	47.5%	36.1%	4.9%	11.5%	100.0%
鈴原	55	3.7%	7,272	3.7%	16	20	2	10	48	33.3%	41.7%	4.2%	20.8%	100.0%
萩野	63	4.2%	11,040	5.6%	22	10	2	18	52	42.3%	19.2%	3.9%	34.6%	100.0%
池尻	68	4.5%	10,883	5.5%	37	6	3	12	58	63.8%	10.3%	5.2%	20.7%	100.0%
鴻池	55	3.7%	9,053	4.6%	25	8	4	9	46	54.3%	17.4%	8.7%	19.6%	100.0%
不明	38	2.5%												
合計	1,506	100.0%	197,542	100.0%	551	255	90	363	1,259	43.8%	20.3%	7.1%	28.8%	100.0%

Q3;居住地 × Q6;過去の入院先

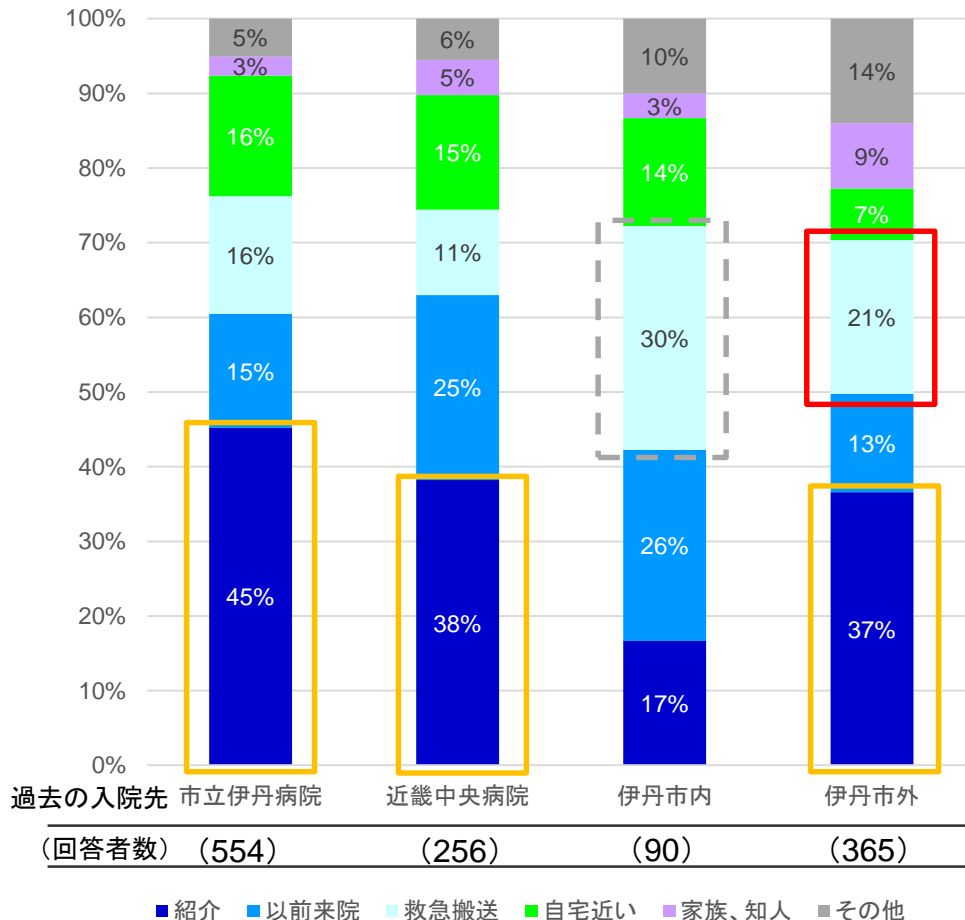
伊丹市全域において市立伊丹病院への受療割合が高いが、市内南部、市境近辺などは、近畿中央病院、あるいは他市へ受療する傾向も見られます



Q7; 入院先を選んだ理由

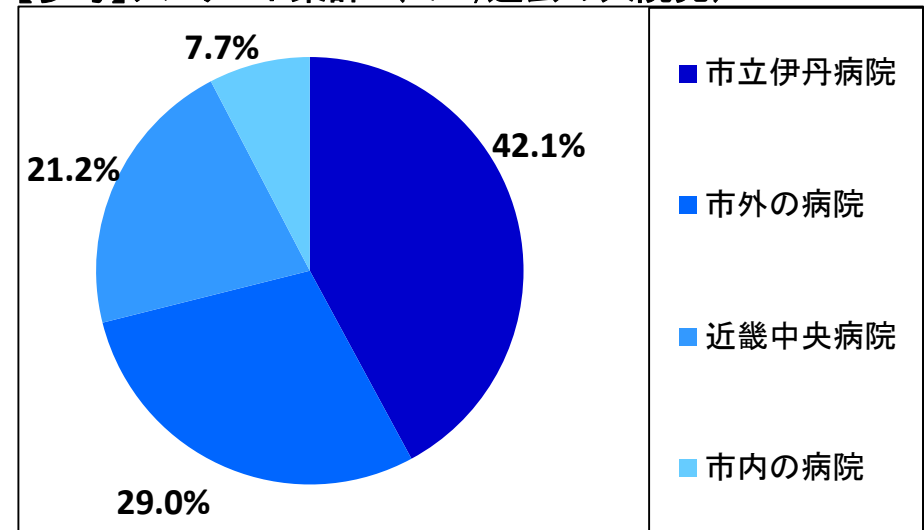
医師による紹介の回答割合が高いが、伊丹市外の受療では救急搬送の割合も高く、重症で流出した患者が含まれていると考えられます

Q7×Q6 過去の入院先



- ✓ 市立伊丹病院、近畿中央病院、伊丹市外の医療機関では医師の紹介による入院が高くなっており、入院患者を増加させるためには、診療所との連携が重要と考えられる
- ✓ 伊丹市外では救急入院での割合も高くなっており、重症で伊丹市から流出した患者が含まれていると考えられる
- ✓ 伊丹市内の他病院で救急搬送が高くなっているのは、伊丹市内の他病院の機能を踏まえると、脳血管疾患での伊丹恒生脳神経外科病院への搬送などが推測される

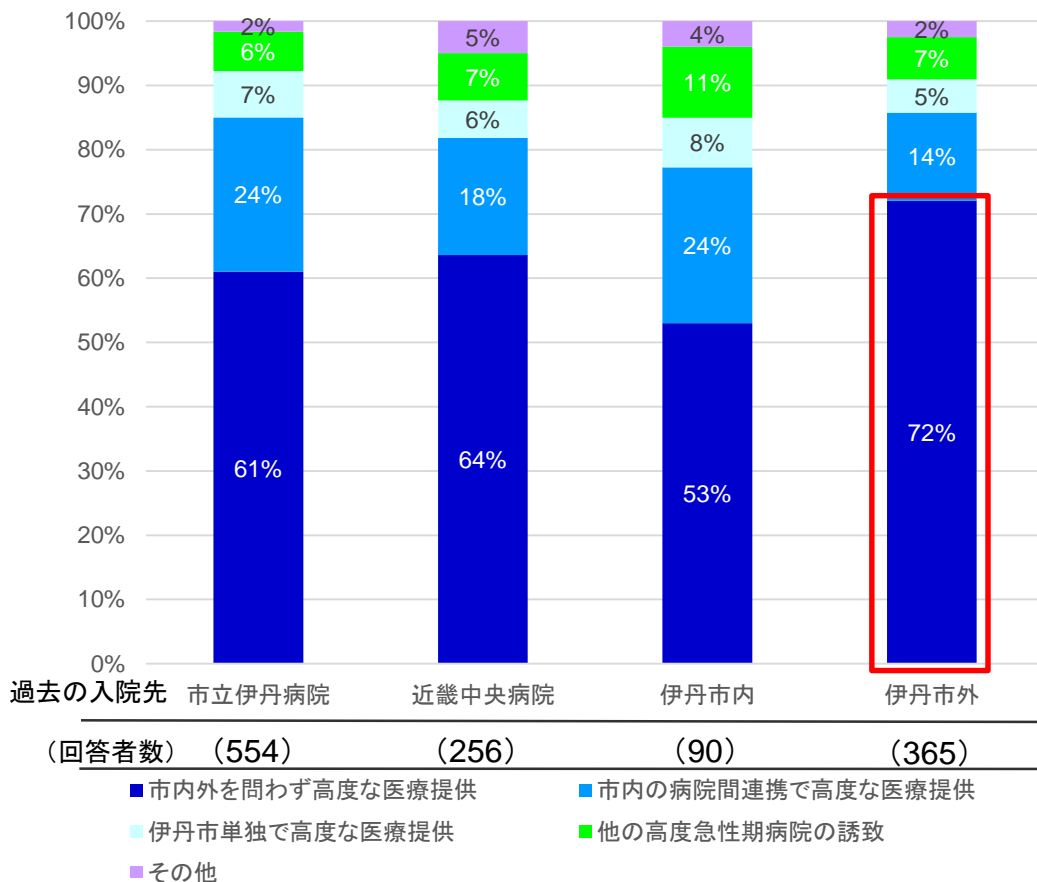
【参考】アンケート集計 (Q6 ; 過去の入院先)



Q8; 高度急性期の必要性

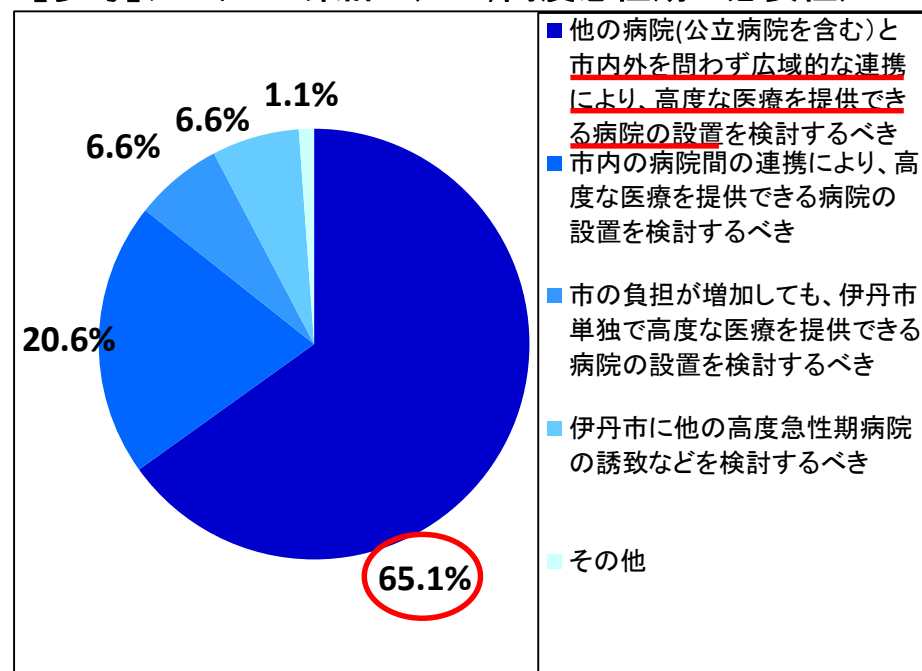
市内外を問わない連携による高度急性期提供の回答者が多いが、回答者の内訳では市外での入院経験者で回答割合が高い傾向となっています

Q8×Q6 過去の入院先



✓ 伊丹市内外を問わない連携による高度医療提供を求める回答が最も多くなっているが、市外で入院経験のある回答者では72%と特に高くなっており、高度医療の必要性はより高いことが考えられる

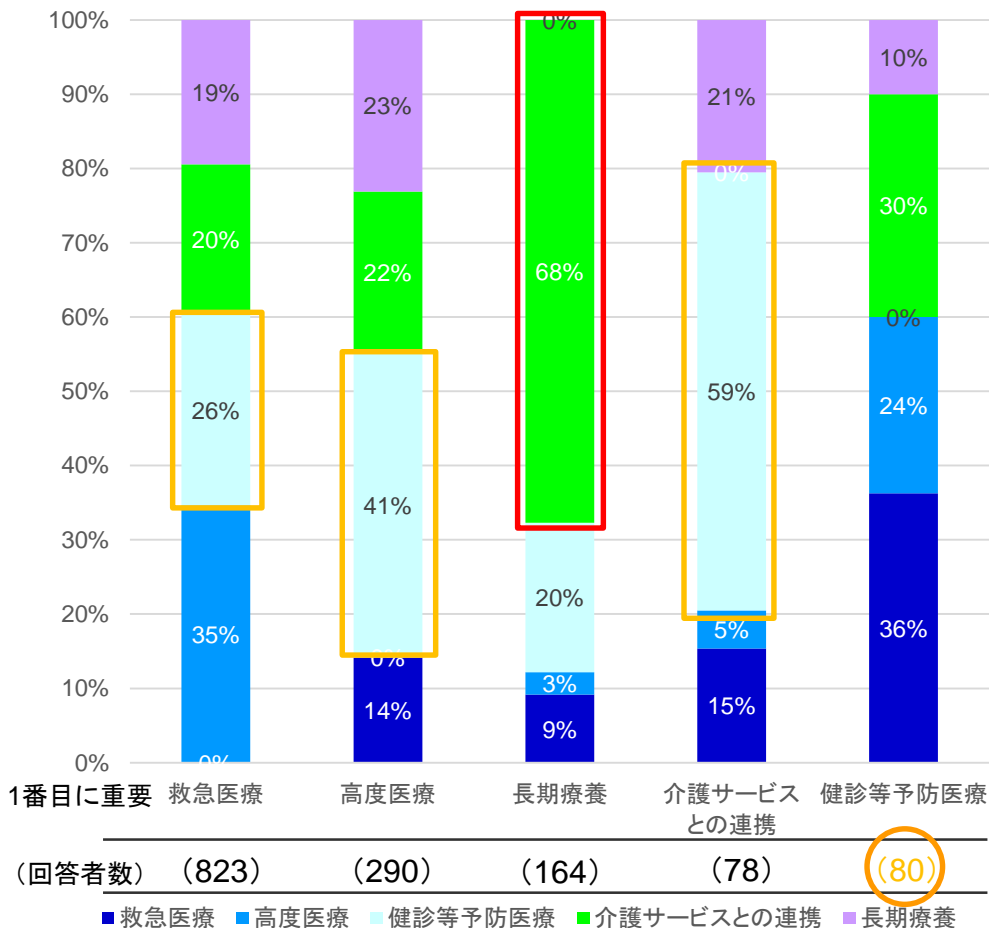
【参考】アンケート集計 (Q8 ; 高度急性期の必要性)



Q9; 市立伊丹病院の医療提供機能

救急医療・高度医療の提供に対する市民の優先度は高い一方で、健診等の予防医療に対しての意識も高くなっています

Q9 重要順での回答

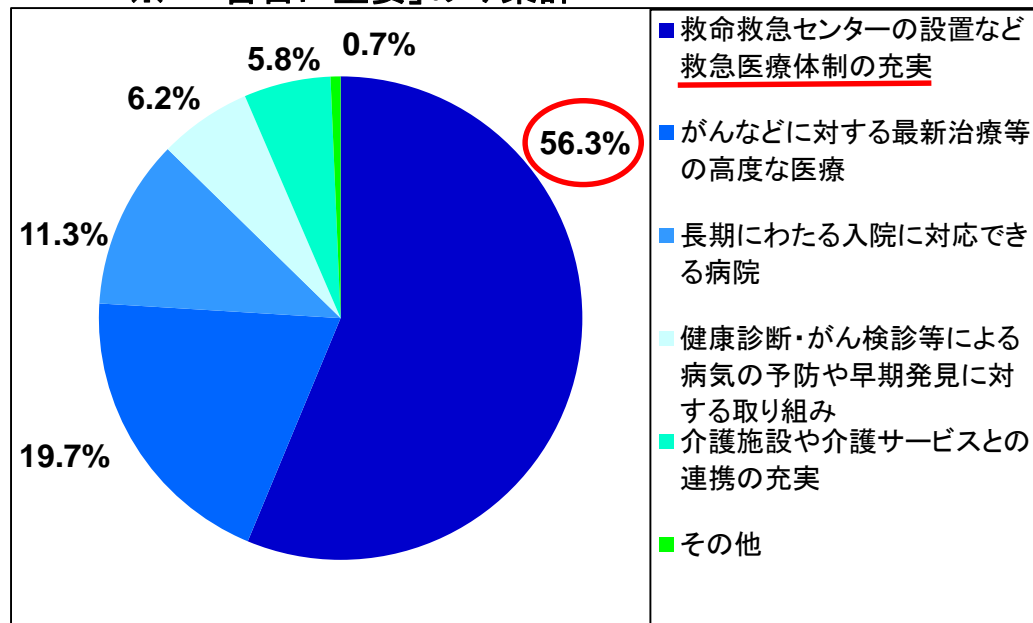


✓ 救急医療、高度医療、介護サービスとの連携を1番目に選んだ回答者は、2番目に健診等の予防医療を選んだ人が多い。健診等の予防医療は1番目の選択では80人と少ないことから、市民から最重要視はされていないものの、予防医療に対する意識は高いと考えられる

✓ 長期療養を1番目に選んだ回答者は、2番目に介護サービスとの連携を選んだ人が多く、介護療養環境が必要な市民の意見が集まったものと考えられる

【参考】アンケート集計 (Q9 ; 市立伊丹病院の医療提供機能)

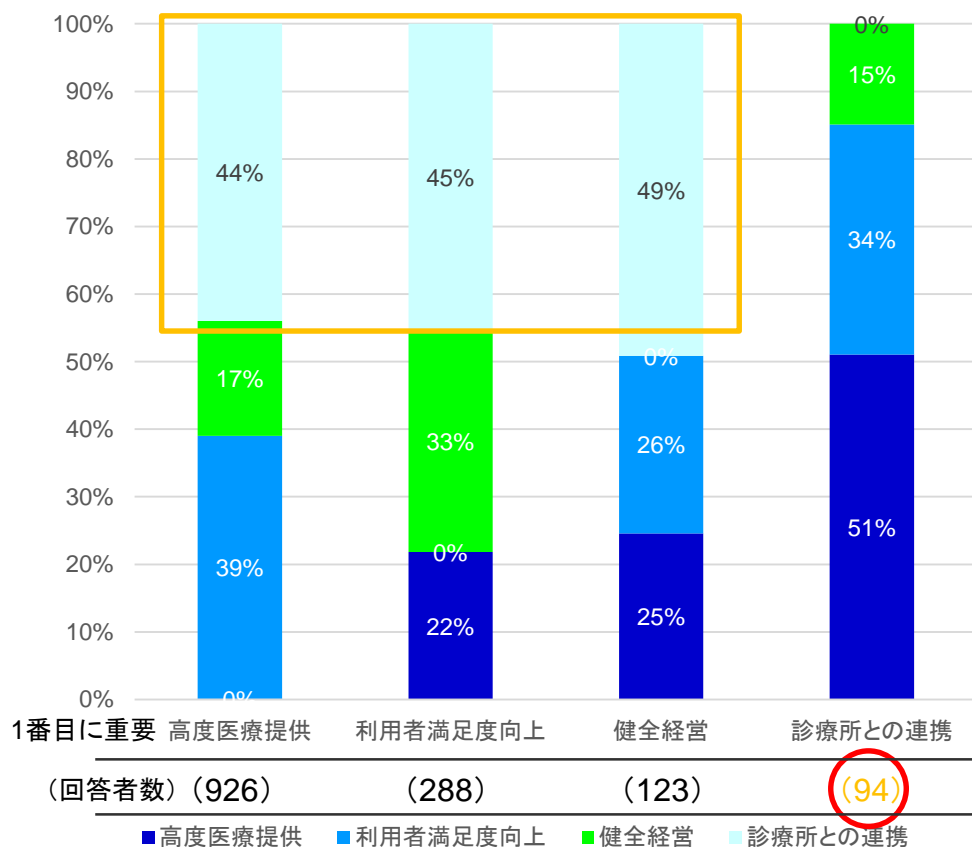
※「一番目に重要」のみ集計



Q10; 近畿中央病院との連携体制

連携による高度医療提供に対する回答が最も多い一方で、2番目は診療所との連携の中心的役割を担うことを選んだ人が多く、市民の地域医療連携への関心は高いことが推測されます

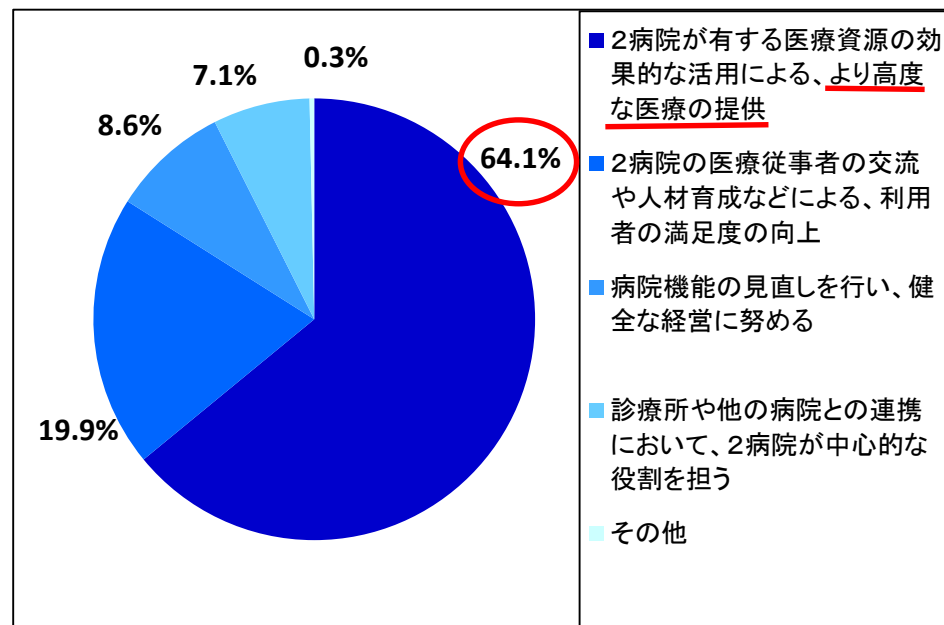
Q10 重要順での回答



✓ 診療所との連携については、1番目に選んだ回答者は94人と少ないものの、2番目に選んだ方は多くなっており、市民の地域医療連携への関心は比較的高いことが推測される

【参考】アンケート集計（Q10; 近畿中央病院との連携体制）

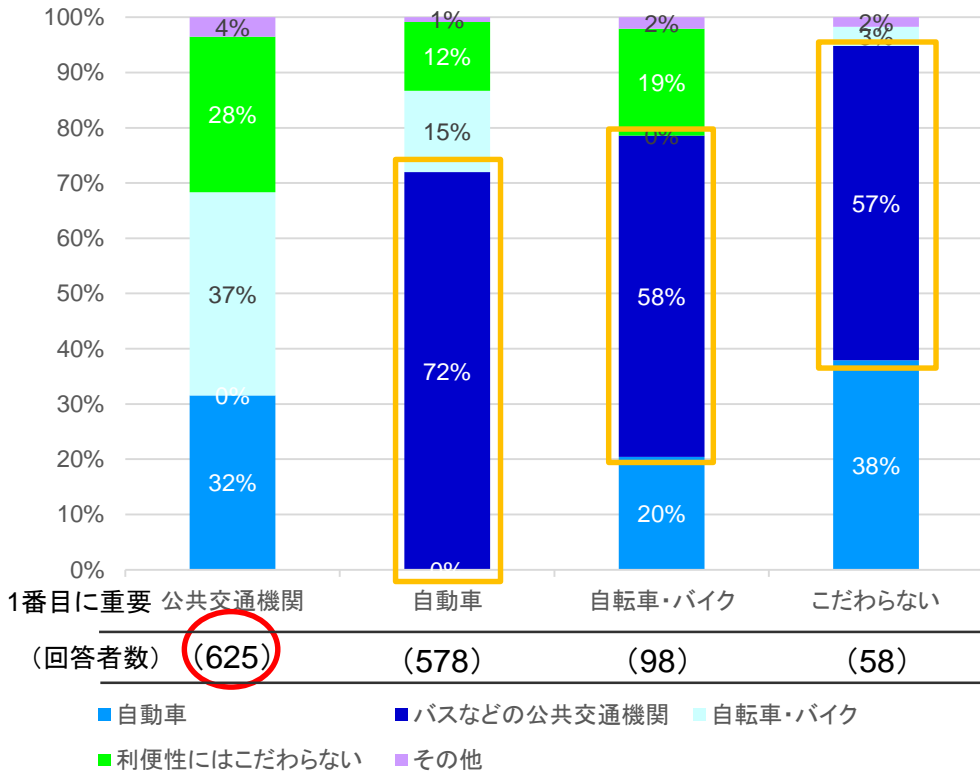
※「一番目に重要」のみ集計



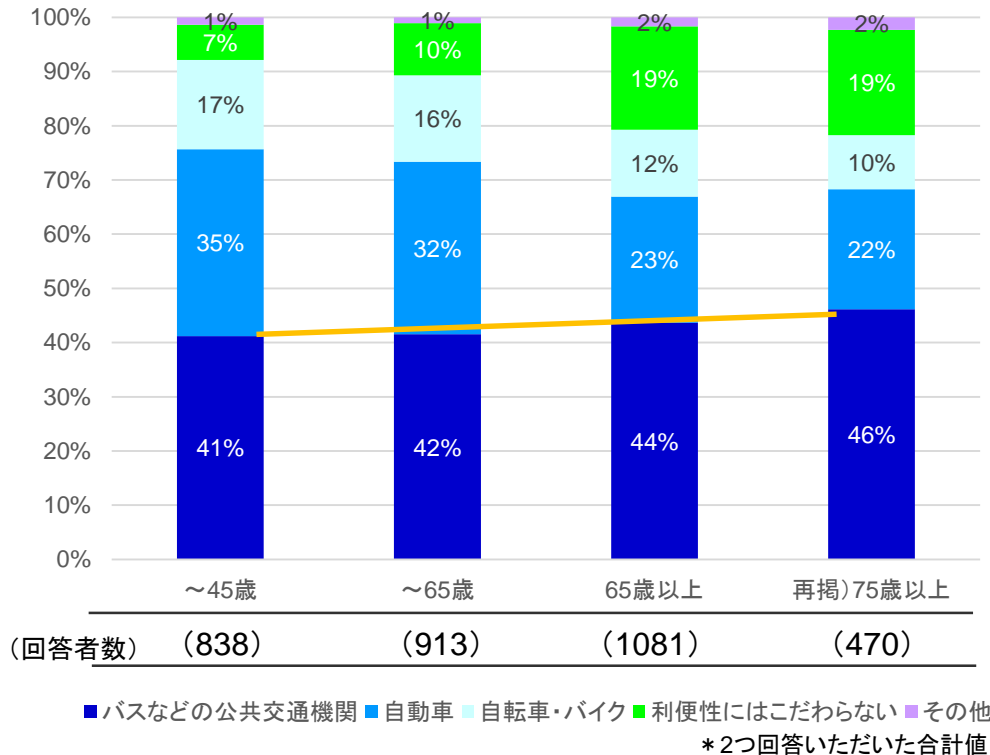
Q11; 病院へのアクセス

バスなどの公共交通機関が最も多く、2番目においても多くなっています。高齢になるにつれ割合は高くなり、公共交通機関に対するニーズは高いと考えられます

Q11 重要順での回答



Q11×Q1 年齢



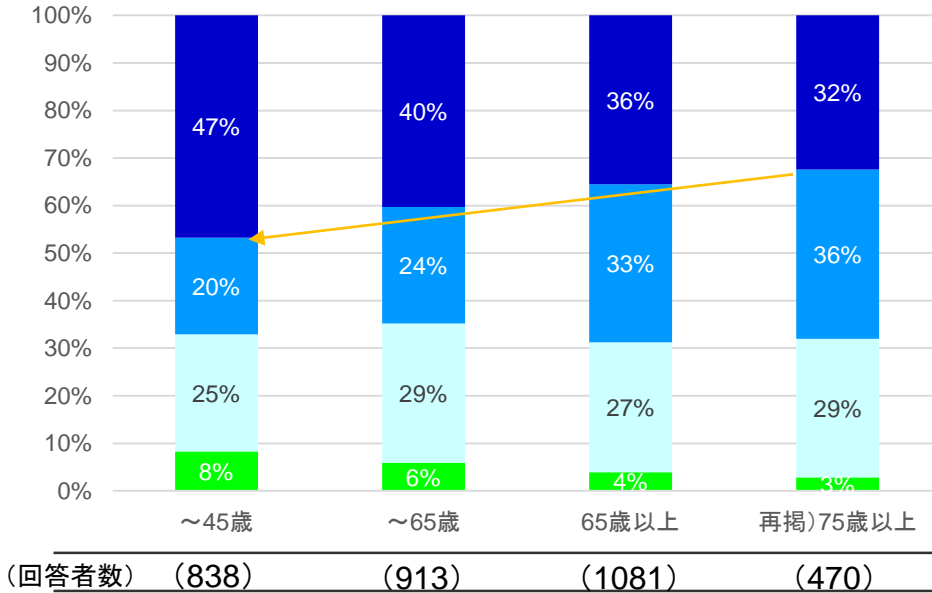
✓ 1番目の選択では自動車、公共交通機関が多くなっているが、2番目の選択では公共交通機関を回答が最も多くなっており、公共交通機関への対応はアクセス面で最も重要と考えられる

✓ 高齢になるほど公共交通機関と回答する割合が高くなっている

Q12; 病院の機能分化

病院の機能分化に関して、年齢が若くなるほど認知度は低くなっています

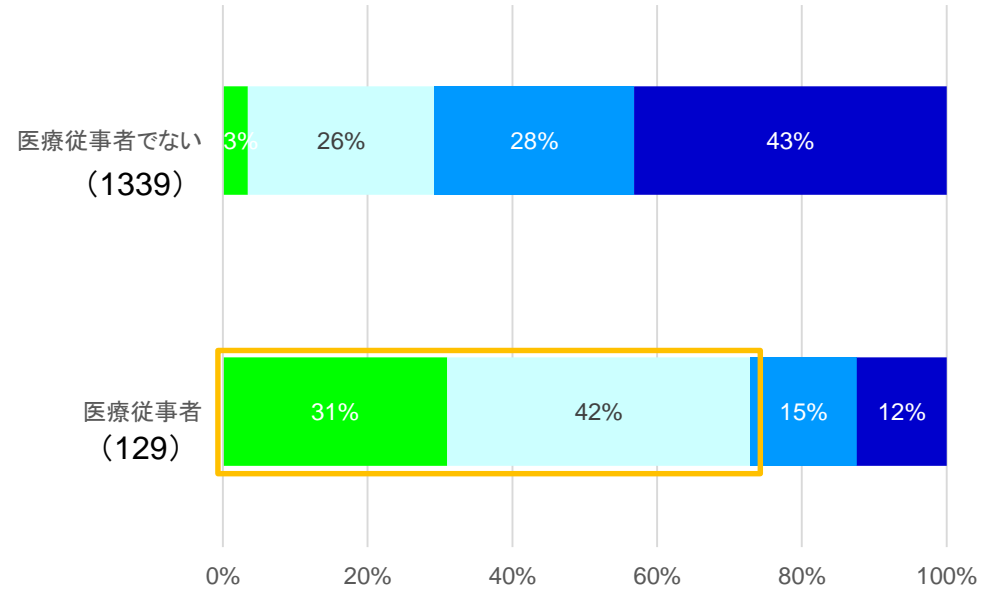
Q12×Q1 年齢



■ 聞いたこともなく、よくわからない ■ 聞いたことはあるが、よくわからない
 □ 知っているが、どの医療機関か認識ない ■ 知っている、どの医療機関か認識

✓ 「聞いたこともなく、よくわからない」への回答は年齢が若くなるにつれ高くなっており、医療受療機会の少ない市民に対する周知啓発の必要性が伺える

Q12×Q4 医療関係者

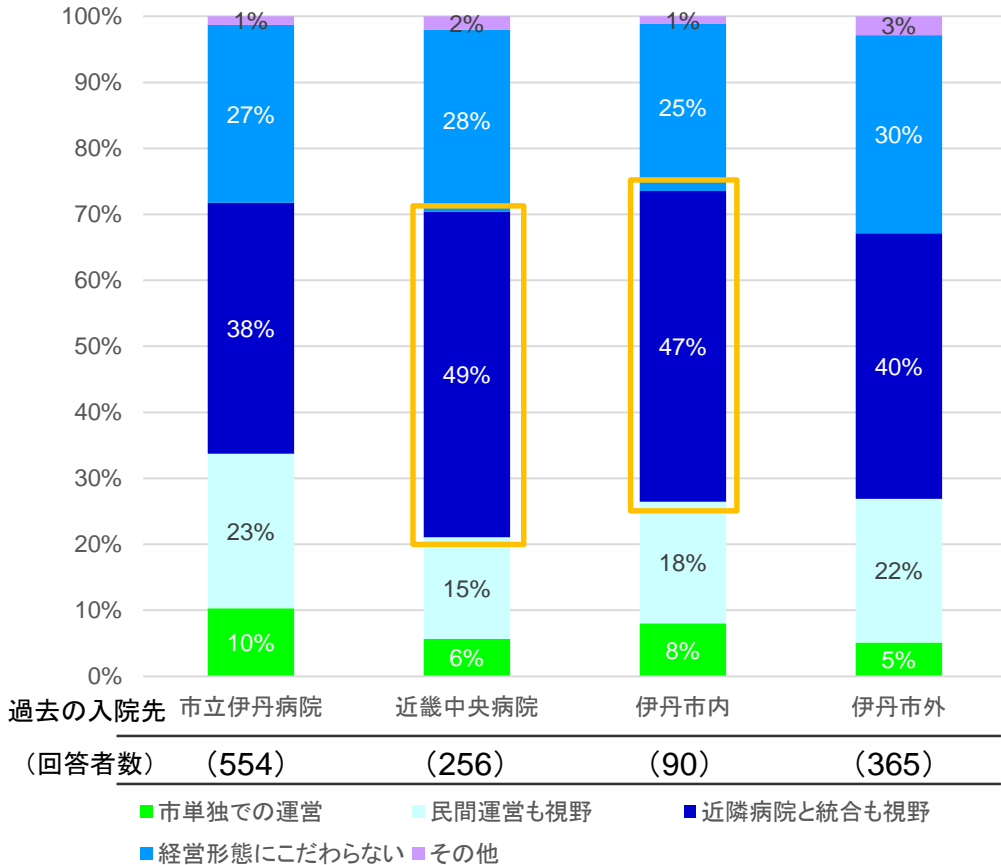


✓ 医療従事者への認知度は70%強と高くなっている

Q13; 市立伊丹病院の経営形態

近隣病院との統合も視野に入れるべきとの回答が最も多く、近畿中央病院、または伊丹市内の病院が入院先の回答者で特に割合が高くなっています

Q13×Q6 過去の入院先



✓ 近隣病院との統合も視野に入れるべきとの回答が最も高く、伊丹市内での入院経験者でより高くなっている

【参考】アンケート集計 (Q13; 市立伊丹病院の経営形態)

